

令和元年度（2019年度）行政評価シート【個表】

令和元年7月5日

評価対象事業		評価者	道路課担当課長 森 明彦	
都整-19	実施事業	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務	主管課	道路課
	国県道対策事業		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	道路整備	施策の方針	道路・橋りょうの整備・維持管理

1 事業の目的

対象	市民等
意図	都市計画道路腰越大船線(大船立体)事業の促進を図るため。
効果	神奈川県及び市民等との連絡調整を行うことにより、都市計画道路腰越大船線(大船立体)事業の円滑な実施を図る。

2 平成30年度(2018年度)に実施した事業の概要

都市計画道路腰越大船線(大船立体)事業に伴う事務事業の円滑な執行を図った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	29年度(2017年度)決算		30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)当初予算		備考
	人口等のデータ	人口	176,466人	176,308人	人口	176,436人	
	世帯数	81,150世帯	81,763世帯	世帯数	82,444世帯		
	事業の対象者数			事業の対象者数			
運営資源状況	決算値(千円)	26	26	当初予算(千円)	26		
	国県支出金			国県支出金			
	地方債			地方債			
	その他			その他			
	一般財源	26	26	一般財源	26		
事業経費運営	人員配置数	1.0	1.0	人員配置数	1.0		
	人件費(千円)	8,334	8,350	人件費(千円)	8,071		
	総事業費(千円)	8,360	8,376	総事業費(千円)	8,097		
	市民1人当りの経費(円)	47	48	市民1人当りの経費(円)	46		
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)			

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	2. 統合に向けた検討は可能
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	2. 増大している
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	3. 廃止・休止による影響は大きくある
	今後も市が実施すべき事業か	5. 豊かな市民生活に寄与することから、今後も市が実施する必要がある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入 △-3. 受益者が特定できないため、受益者負担を求めることができない
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-2. 市民等と協働して事業を実施することはできない

事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す → <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する →	見直しの種類	<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他	見直しの内容	
	事業内容・予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き都市計画道路腰越大船線(大船立体)事業の促進を図るため、神奈川県等と連絡調整を行っていくことから予算規模は現状維持とした。	

総評(評価に対する考え方、根拠等)	事業費は、当該事業の推進に必要な消耗品費だけであるため、削減余地はない。 本事業では、大船立体事業など神奈川県との協力体制の中、鎌倉市の費用負担が必要な場合に予算措置することとなっているが、県事業が完了すれば統合は可能である。 本市は、昭和59年度に移管された小袋谷跨線橋の経年劣化にともなう橋の架け替えを早期に実施することを目的に要望書を神奈川県知事宛に提出した。小袋谷跨線橋は、南関東地震クラスが発生すると落橋する恐れがあったため、架け替えが急がれていたものであり、地元住民を始め、全市民から1日も早い完成が望まれていた。本事業は、市民生活に直接影響する小袋谷跨線橋を再整備するものであり、この事業を推進するため、県・市・住民間の調整を行う事業内容は妥当であり、有効性は4とした。平成29年6月に本線の供用が開始されたが、台二丁目交差点の移設や鎌倉側歩道整備など未整備部分の供用開始に向け、引き続き、県及び関係課と協力し、着実に事業の推進を図っていく。
-------------------	--

平成30年度(2018年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	現在、都市計画道路腰越大船線(大船立体)事業において工事中である既存市道の付け替えに関する調整・実施を行うとともに、その他の工事未施工部分の完成に向けた調整・実施が必要である。	
課題解決のために行った平成30年度(2019年度)の取組	平成30年度は、大船立体の東側歩道の設置工事、大船立体の東側歩道から県道302号(小袋谷藤沢)に下りるための階段付斜路の製作及び設置工事、並びに大船立体の建設により分断された市道213-014号線の再整備が行われた。	<input type="checkbox"/> 解決 <input checked="" type="checkbox"/> 一部解決 <input type="checkbox"/> 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	今後、大船立体の整備に係る既存市道の付け替えに関する神奈川県と鎌倉市との調整を行うとともに、工事未施工部分の調整を引き続き行っていく。	

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項									
団体名									
他市実績									

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容		単位	指標の傾向		備考			
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	
	目標値							
	実績値							
	達成率							

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	
-----------------------	--